

昭和40年度
(1965)

厳冬期五竜岳遠見尾根から鹿島槍ヶ岳・五竜岳北尾根

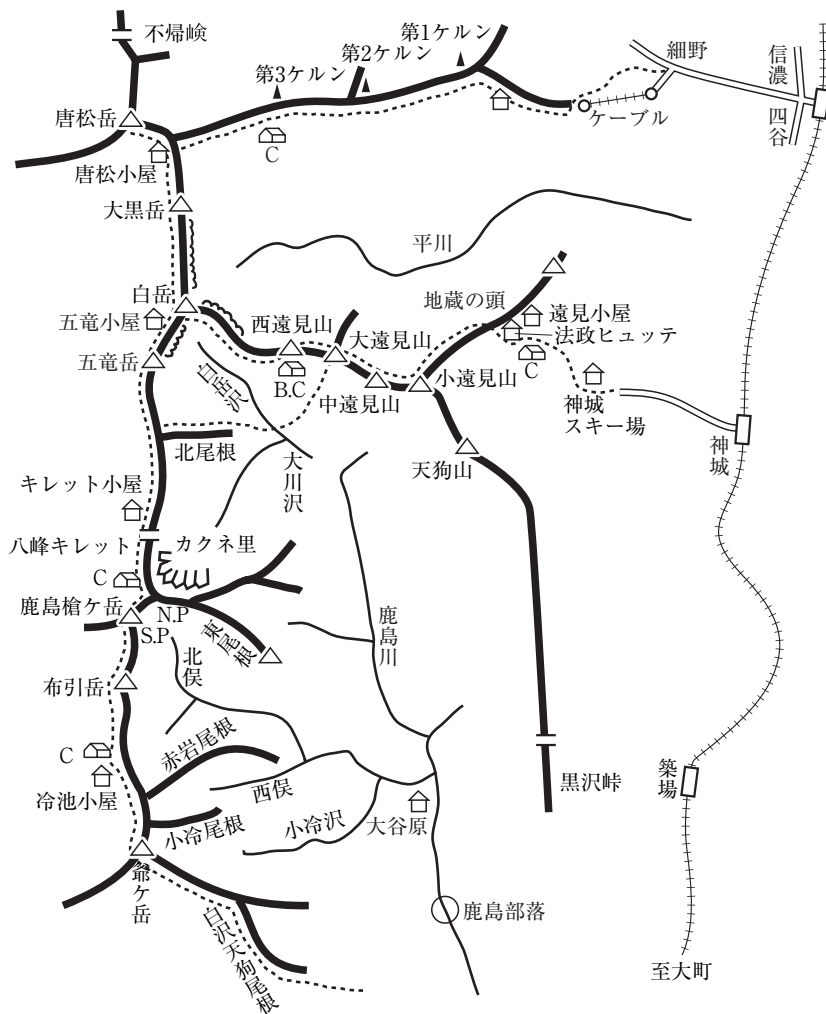
昭和40(1965)年12月20日～12月30日

今回の冬山合宿は、遠見尾根より鹿島槍ヶ岳、八方尾根への縦走と五竜岳の北尾根アタックという比較的ポピュラーなルートを取った。このため1年生より上級生の方が安易感があったように思われる。しかし、実際には雪庇を踏み破ったり、足元から新雪雪崩を引き起こしたりで、遭難一步手前の状態であった。まったく冷汗ものである。ルートファインディングの甘さを示す以外の何物でもない。今一つ感じたのは、全員の合宿前のトレーニング不足である。積雪期の山行においては、各自が完全に他人に迷惑をかけるこ

となしに行動できなければならぬという自明の真理を忘れていた人もいた。今までの部生活で何を学んだのか疑いたくなるような言動があったのは残念であった。今後のリーダー会はより厳しい合宿資格の検討が必要となると思う。

ともかく我々は、今度の合宿で多くのものを学んだ。今後はこれを生かした山行を計画しなければならない。前進！前進！又前進！

CL 小川 勝



五竜岳・鹿島槍ヶ岳概念図

参加メンバー

CL 小川 勝 SL 岡村知彦
川治晴彦 西阪 孚 中村 洋 福原正昭
装備 井上紀樹
食糧 牧 晃一 扇能 清 小林幹夫
気象 内藤精二
医療 佐藤俊彦
記録・会計 村田譲治

行動概略

12月20日 松本～神城～遠見小屋
12月21日 晴 TS～小遠見～大遠見～西遠見池

昨日同様の苦しい行動だった。時折見える鹿島槍ヶ岳の雄姿が唯一の慰めであった。西遠見のテント場は五竜岳、鹿島槍ヶ岳の素晴らしく良く見えるところで気持ちよい。

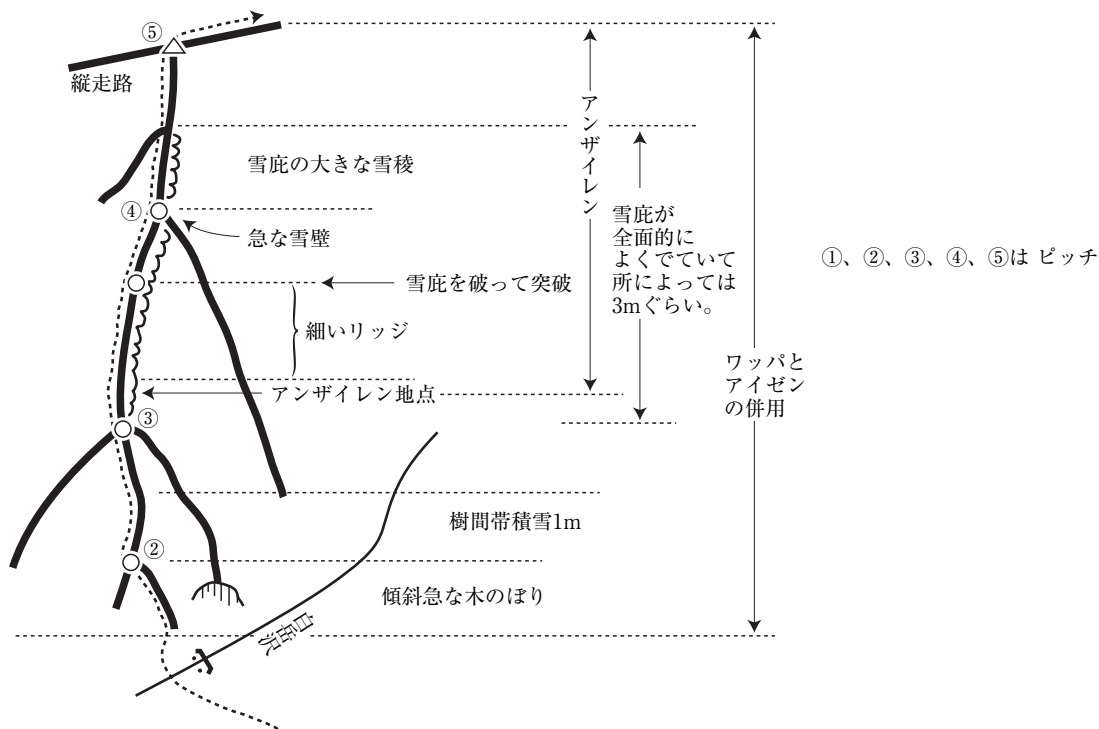
西遠見TSから懐中電燈を灯して、昨日のトレースを伝って大遠見山へ下り、テント場尾根を降りる。雪状表面5cmのクラストでその下はザラメ雪。アイゼンとワッパの併用で足が重い。白岳沢のナダレに脅かされてトラバース。白岳沢の滝は少々水が出ている。取り付きから200m余り急な樹林帯で木を掘り出してホールドとし攀じ登る。ジャンクションでエッセン。パンを食う。



●西遠見池 BC の設営

12月22日 快晴
五竜岳北尾根アタック隊
L 小川、中村、福原、井上
TS (5:45) ～テント場尾根 (7:00) ～北尾根取付 (7:50) ～縦走路 (17:40) ～五竜岳 (21:40) ～TS (23:35)

2ピッチ目、快適な雪稜、ジャンクションにて休息、羊羹に舌鼓を打つ。ここから雪庇の張り出しが北側に1～3m出ている。ラッセルは20～30cm、細いリッジで南側、北側に切れている所は80mはスタックカットでザイル80mを伸ばす。その後の40mは横まき不可能なのでリッジ通し



五竜岳北尾根概念図

に雪庇を突き破って突破。さらに 120m 伸ばして
樺帯にて二度目のエッセン。この頃から全員疲労
が増す。

4ピッチ目 20m の雪壁に始まりジャンクシ
ョンに立つ。後 200m の雪稜、最後の 10m のハイ
松帯の直登を過ぎて、60m の雪稜で縦走路のジャン
クションに出る。ここが終了点である。ここから
ヘッドランプを出して帰幕の途に入る。五竜岳
までの稜線はアイゼンを駆使し、また何度かルー
トを間違えて五竜岳のピークに立った。

五竜岳遠見尾根アタック隊

L 岡村、西阪、川治、牧、内藤、小林、佐藤、扇能、
村田

TS (6 : 45) ~ 白岳 (7 : 55) ~ 五竜小屋 (8 :
03) ~ ピーク (10 : 35) ~ 五竜小屋 (13 : 15) ~
TS (14 : 30)

- 12月23日 雪 沈殿
- 12月24日 雪 沈殿
- 12月25日 雪 沈殿
- 12月26日 雪 沈殿
- 12月27日 快晴 八方尾根隊と鹿島槍ヶ岳隊と

に分かれる
八方尾根隊

L 小川、西阪、川治、井上、内藤、佐藤、小林、
扇能、村田

TS (8 : 05) ~ 白岳 (9 : 15) ~ 唐松小屋 (13 :
05) ~ 唐松岳ピーク (13 : 35) ~ 唐松小屋 (14 :
05) ~ 第三ケルン (14 : 35)

鹿島槍ヶ岳隊

L 岡村、中村、福原

9 : 35、白岳で八方尾根隊と別れる。彼らを見
送り、五竜岳、鹿島槍ヶ岳を見ると何とも云えぬ
感慨が湧く。11 : 10、五竜岳頂上、鹿島北壁や劔
岳、続く北方稜線の長大さと、四方は素晴らしい
眺め。カクネ里の方で不気味な雪崩の音が聞こえ
る。福原の調子悪く、時間が掛かったが事無くキ
レットまで来る。17 : 30、キレット通過。日没と
なり今合宿二度目の夜間行動となる。20 : 05、北
峰下。夏道大トラバースの少し手前のところにテ
ントが張れるわずかのスペース有り、雪庇と強風
に注意して設営。完了 20 : 50 であった。

12月28日 晴のち曇

八方尾根隊

八方池 (7:50) ~ 兎平 (9:10) ~ 咲花ゲレンデ
(10:35) ~ 四ッ谷駅 (12:00)

鹿島槍ヶ岳隊

風が弱まるのを待ったが昼頃風雪となる。沈殿

12月29日 雪 鹿島槍ヶ岳隊

8:00、ガスが薄くなり、南方の鹿島槍ヶ岳本峰見える。撤収。

9:15、TSを後にする。トレース無く、信州側へ4m余りの雪庇。昨夜の降雪30cm。固まっておらず雪状不安定でトラバースに神経を使う。北峰400m北方、リッジより30m下、黒部側のト

ラバース、福原足下より新雪表層雪崩発生、幅およそ200m、終着点確認できず。ここより中村、福原アンザイレン。完全リッジ通しにルートを取る。北峰直下40m(夏道のトラバースで吊り尾根へ出るルートは雪状悪く不可能)リッジ通しに直登、13:15、北峰。長野山岳部のアタック隊、秋山、佐藤と出会う。

15:05、南峰。16:05、冷池小屋前着。

12月30日 雪 鹿島槍ヶ岳隊

TS (8:05) ~ 爺ヶ岳北峰 (9:05) ~ 東尾根白沢天狗尾根分岐 (10:00) ~ 1766m ジャンクション (11:10) ~ 鹿島部落 (12:35) ~ 松本着 (15:50)



●唐松岳頂上にて